

新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。  
また、罹患された方々とそのご家族の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。

SJ

The Safety Japan  
since 1971

Close Up

クローズアップ 教育手法

## コロナ禍で模索が続く、 交通安全教育の新たな手法

新型コロナウイルスの影響による学校の休校で、今春は子どもたちが交通安全教育を受ける機会が例年に比べ減った。地域の交通安全指導者たちは、この状況を少しでも改善するため、新たな教育手法を模索している。今回は、外出できない子どもたちに交通安全教育を届けようと工夫している地域の取り組みを紹介する。



### 事例① 自動車安全運転教育推進協会（愛知県）

#### 幼児とその保護者向けに オンライン交通安全教室を実現

自動車安全運転教育推進協会は幼児とその保護者向けに「オンライン交通安全教室 in Zoom」を開催している。Zoomとはパソコンやスマートフォンなどを介して会議やセミナーに参加できるアプリ。これを利用することによって、同協会はオンラインでの交通安全教室を実現させたのである。

同協会は愛知県や岐阜県の企業を中心に出張での安全教育を行う団体。代表理事を務める長谷川教子さんは元警察官で、様々な対象に安全教育を実践してきたキャリアを持っている。4月以降、長谷川さんの周囲にいる子どもの保護者から「毎年4～6月に幼稚園や小学校で実施されている交通安全教室がなくなってしまったが、どうすればいいのか」という相談が寄せられるようになった。

「学校の先生方に聞いてみると、『交通安全教室を4～6月にやるのは難しい』という反応でした。PTAの役員をはじめ保護者の方々が諦めていたので、何か役に立つことができないかと考えました。警察官だった時、Hondaの交通安全教育プログラムを使って指導していたので、それをオンラインで実現しようと思ったわけです。パソコンかスマートフォンがあれば、自宅にいながら子どもと保護者が一緒に参加することができます。単に交通ルールを学ぶだけでなく、将来、危険を回避する能力を子どもに身につけてもらうための第一歩として保護者の皆さんに活用してほしいと思います。」

開始時刻が近づくと、Zoomを通して参加者（親子）が入室してくる。Zoomでは参加者の顔の映像と一緒に名前が表示されるので、これを子どもの名前にしてもらう。オンラインではリアルな交通安全教室と比べると、参加者の反応がわかりにくい。一人ひとり名前を呼ぶことで、子どもの意識を引きつけようというねらいがある。

今回はHondaの幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ（以下、あやとりい）」と「できるニャンと交通安全を学ぶ」を取り入れ実施した。「Hondaのプログラムは必ず覚えてほしいポイントが絞り込まれているので、道路を歩く時に最低限守るべきことを子どもたちに理解してもらいやすいと感じています。保護者の方もこれを体験すれば、何をどのように子どもたちに伝えれば良いのか、わかるのではないのでしょうか」と長谷川さんは説明する。まず参加者が視聴する画面に「あやとりい」のワークシート（写真参照）が映し出される。長谷川さんは男の子や女の子のキャラクターを画面の中で動かしながら、どこを歩くべきか、歩行者用信号機が「赤」「青」「青点滅」の時はどのように行動すべきか、子どもたちに質問。「わかった人は手を振ってください」と呼びかけ、画面越しに手を振った子どもを指名して答えてもらう。



「オンライン交通安全教室 in Zoom」では「あやとりい」のワークシート（写真上）をパソコンなどの画面上で共有して進められた

### Contents

- P1-3 Close Up クローズアップ 教育手法
- P4 Close Up クローズアップ 交通事故
- P5 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P6 危険予測トレーニング (KYT)  
SJ クイズ



### Safety for Everyone

Honda はすべての人の  
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

ホンダ SJ

検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1  
TEL：03(5412)1736  
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>  
編集人：鈴木英樹

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係  
TEL：03(5439)1191  
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

次に「できるニャンと交通安全を学ぶ」。アニメーションを見ながら、信号機のない横断歩道を渡る時の危険を子どもたちに考えてもらい、答えてもらった上で、どのように行動すれば安全かを解説した。

最後に長谷川さんが「子どもは知識として知っていても、行動に移せないことがたくさんあります。大人からみたら当たり前なことであっても、日々の繰り返しの中で少しず

つ身についていくものです。保護者の皆さんが声をかけながら身体でしっかり覚えさせるようにしてください」と呼びかけ、交通安全教室は終了した。

「Zoom を利用したことがある保護者の方は気軽に参加してもらえますが、使ったことがない方にとっては参加へのハードルが高いようです。そうした方には、Zoom を使えるようにサポートすることも必要になってきます。その一方で、

オンラインであれば、教室を開催する場所に縛られないので、全国展開できる可能性があると感じています」。

学校の休校が長期化したことによって、教育現場では行事の見直しが図られている。その中で、交通安全教室の中止や開催回数減ることを長谷川さんは危惧する。「私たちも、交通安全教育の重要性を先生方や保護者の皆さんに再認識してもらおうための努力を行っていこうと考えています」。



「できるニャンと交通安全を学ぶ」ではアニメーションを画面上で共有。途中で映像を止め、信号機のない横断歩道を渡る時の危険を子どもたちに考えてもらい、答えてもらった後に解説する



Zoom を使って交通安全指導をする自動車安全運転教育推進協会代表理事 長谷川教子さん

## 事例② 横浜市 (神奈川県)

### 幼児向け「交通安全指導動画」を制作し市の YouTube チャンネルで公開

横浜市は5月21日に幼児向け「交通安全指導動画」を同市の YouTube チャンネルで公開した。

動画を制作したのは横浜市道路局交通安全・自転車政策課。同課担当課長 前川純司さんは「本市では幼児交通安全指導員が市内の幼稚園・保育園で訪問指導を行っています。新型コロナウイルスの影響で、それができない状況になりました。そこで、子どもが基本的な交通ルールを理解し、安全に歩行できるようになるための指導内容を動画で公開し、幼稚園・保育園の先生方、保護者の皆様に活用していただこうと考えました」と話す。

動画は指導員3名が制作したもの。指導員の一人、岡田和美さんはこれまでやってきた交通安全教室とは違う内容にしたいと思い、Honda の「あやとりい」を取り入れることにしたという。

「今年度は『あやとりい』を訪問指導の中で使おうと、Honda から教材や指導ノウハウの提供を受けたところでした。ワークシートに描かれている交通場面のイラストはシンプルでわかりやすく、子ども目線の指導ができるため、今回の動画には最適だと思ったのです。本市の交通安全キャラクターとコラボレーションしたオリジナルのシナリオを考えました。新型コロナウイルスの影響で、指導員全員が集まる機会が少なく、限られた時間で練習し、動画の撮影と編集を行いました」。

第1弾の動画は車道と歩道がある道路、路側帯のある道路、路側帯のない道路、それぞれの「正しい歩き方」について、指導員が扮する魔女の「まじょりーな」と横浜市の交通安全キャラクターの「ルールちゃん」との掛け合いで伝えていくというストーリーになっている。

「まじょりーな」は「あやとりい」のワークシートを見せながら、その中のどこを歩くべきかを「ルールちゃん」に問いかける。ここで映像が一旦止まり、「みんなもいっしょに考

えてみましょう」というテロップに切り替わる。ここで先生や保護者は動画を一時停止して、子どもに考えさせる時間をとった上で、再び映像をスタートする。すると、「まじょりーな」が呪文を唱え、男の子と女の子が正しく歩いている様子へと変わる。

「子ども自身に答えを考えさせることで、『自分から気をつけよう』と自発的に行動できるようになるきっかけづくりのため、何回か考える時間を設け、一時停止をして子どもの考えを聞きながら進めていけるように工夫しました」と岡田さんは説明する。

横浜市では、毎年、約600園から申し込みがあるが、指導員3名で市内全域を担当しているため、1つの園で交通安全教室を実施できるのは数年に1回。そうした事情もあり、新型コロナウイルスが収束しても、活用してもらうことを視野に入れ、幼稚園・保育園の園長会で動画をPRするなど活用を促している。

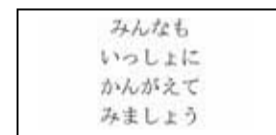


「まじょりーな」が呪文を唱えると、歩道で男の子と女の子が遊んでいるシーン(左)が正しく歩いている様子(右)へと変わる

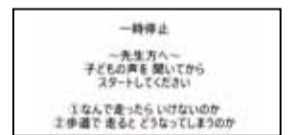


6月3日に公開された第2弾の動画では、道路の安全な横断について学べるようになっているほか、「あやとりい」の音当てクイズも収録されている

担当課長の前川さんは「今回のような事態をふまえ、非接触型の教育手法も充実させていく必要があると感じています。通常の交通安全教室では指導員が対面で子どもたちの関心や理解度を判断しながら進められますが、動画ではそれができません。そうした点を考慮しながら、子どもたちを引きつけ、理解しやすいものを検討していきたいと考えています」という。6月3日には幼児向け「交通安全指導動画」の第2弾を公開。第1弾と同じく「まじょりーな」と「ルールちゃん」との掛け合いで、「信号のお約束」「横断歩道の渡り方」などを紹介。横断歩道を渡る時は信号機の有無にかかわらず、まず車道から一歩離れた場所で止まることを強調している。



子どもに考えてほしい場面で映し出されるテロップ



先生方から子どもたちに問いかけてほしいポイントも映し出される



識者に聞く：(一財)日本自動車研究所 安全研究部 予防安全グループ 主任研究員 大谷亮さん

### 子どもが事故に遭いやすい時期や時間が例年と変わってくることに注意を

新型コロナウイルスの影響で、子どもに対して例年通りの交通安全教育ができていない地域は多いはずだ。子どもへの交通安全教育に関して研究している大谷さんは、例年4～5月に実施していた交通安全教育を多くの学校が授業を再開した後にしっかりやっておくことが大切だと強調する。

「外出自粛要請のため、子どもたちは長い間、家に閉じこもっていることが多かったと思います。自由に外に出られるという解放感や、学校生活が始まることへの期待と不安に起因する不安全行動が事故に結びつかないように、保護者をはじめ周囲の大人が登下校時の見守りや立哨活動などで指導してあげてください。特に、新1年生にはこれまで通り校庭や実際の道路で適切な歩き方を訓練する場を設ける必要があります」。

また、子どもたちが例年のような交通安全教室を受けられないことも考えられることから、家庭における教育も充実させてほしいという。家庭でも手軽に交通安全教育を

実践してもらうため、大谷さんが部会長を務める日本交通心理学会学校・家庭部会では、玩具を用いた安全教育の方法を6月9日に同学会のホームページ(<https://www.jatp-web.jp/>)に公開した。空き箱でつくったクルマや玩具のクルマを利用した遊びの中で、子どもに飛び出しの危険性を理解してもらえる内容になっている。

ドライバー・ライダーにも、これまで以上に子どもの飛び出しには注意する必要があると大谷さんは警鐘を鳴らす。「小学1年生の交通事故は入学直後の5月から増加する傾向にあります。しかし、今年は時差通学、夏休みの短縮などによって登下校する時期や時間が例年とは異なるため、1年生が事故に遭いやすい月や時間帯が変わってくるのが予想されます。ドライバー・ライダーの皆さんは、普段は家庭や学校にいる時期や時間帯でも、子どもが飛び出す可能性を予測しておくことが重要といえるでしょう」。

## 事例③ 交通安全岩国市対策協議会（山口県）

SNS を活用して  
交通安全情報を発信

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用して交通安全に関する情報を発信しているのは交通安全岩国市対策協議会。4月からSNS（FacebookとInstagram）による啓発活動を始めた。同協議会交通指導員 高本雅恵さんは「幼児の保護者に家庭でも交通安全教育を行ってもらえるように、これまでホームページでの情報発信や『交通安全だより』を発行していました。しかし、ホームページは興味のある人しか見ない、紙媒体は一目見て捨ててしまうという人が多いようで、ねらったほどの効果が出にくいように感じていました。そこで、もっと手軽なSNSに目をつけたというわけです」と話す。SNSは幼児の保護者に当たる世代はもちろん、幅広い世代が利用している。一度「いいね」ボタンを押してしまえば、自分のタイムラインに投稿が自動的に流れてくるという仕組みに着目したのである。写真や動画が投稿でき、文字だけでは伝わらないことも一目見てわかるので利用する価値が高いと高本さんはいう。

まず公開したのは「ちゃんと乗ってる？チャイルドシート」という動画。幼児向け交通安全教室で使用している手づくり教材を使って動画を撮影したものだ。チャイルドシートを使用せずに子どもをクルマに乗せている時、事故が起こったら、どんな危険があるのかを示す内容となっている。最初に、チャイルドシートを使用していない状態でHondaの交通安全キャラクター「できるニャン」のぬいぐるみを模型のクルマに乗せ、もう1台のクルマと衝突させる。すると、「できるニャン」は勢いよく車外に投げ出されてしまう。次に、チャイルドシートを使用した状態で同じことを繰り返す。今度は、ベルトで身体

が固定されているため、座ったままの状態を維持している。実際の交通安全教室では「できるニャン」が投げ出される衝突シーンは一瞬で終わってしまうが、今回の動画ではスローモーションでの映像が付け加えられている。「できるニャンのぬいぐるみはダミー人形ほどリアルではないので子どもにも見てもらいやすいと思います。シートベルトを固定する際の『カチッ』という音はあえて実際より大きく聞こえるようにしました。『車に乗ったらシートベルト』ということをこの音で意識づけさせたいというねらいがあります。

岩国市では休校となっていた小・中学校で5月7日から授業が再開された。その翌日に、通常の交通安全教室で活躍する腹話術人形の「まあくん」が「クルマや自転車を運転する時、



ベルトをしていない「できるニャン」は、衝突によって前方に勢いよく投げ出されてしまう



ベルトで固定して衝突させると、「できるニャン」はシートに座ったままの状態を保っている

道路を歩く時は気をつけてね。おうちに帰ったら、手洗いとうがいをしてね。お外に出る時はマスクも忘れないでね」と呼びかける動画を公開した。同市内には米軍基地があり、外国人も多いため、英語の字幕をつけたという。

「今後の交通安全教室は参加人数を減らし、時間を短縮するなど安全性を最優先に考えた運営をしていく必要があります。幼稚園・保育園では年間3回行っていますが、その回数を減らしてほしいと要請される可能性も高いでしょう。今までと同じような指導ができない分、DVDやYouTube、SNSを活用して、幼稚園や保育園、家庭でフォローできるような環境を整備していこうと考えています。」



## 事例④（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部

自転車の交通ルールなどが学べる動画を  
制作し、ホームページに公開

（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部はホームページに自転車の交通ルールについて学ぶことができる動画や資料を公開している。

同支部交通安全指導員 鈴木利枝さんは「新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月から5月にかけて小学校が臨時休校となり、毎年春先に開催していた交通安全教室はできない状況となりました。交通安全教育の機会が減ってしまうことにより、小学生が巻き込まれる事故が増える恐れがあります。代わりにできることを指導員4名で考えた結果、動画を制作することにしました」と振り返る。

今回の動画で扱うテーマは自転車に絞った。その理由は2つあると鈴木さんは説明する。

1つ目は、昨年12月に浜松市内で自転車に乗った小学生が見通しの悪い交差点でクルマと衝突して死亡した事故が発生したこと。「以前から、保護者の方には自転車を子どもに買い与えたら、それで終わりではなく、自転車の交通ルール、点検や安全確認の方法まで子どもにきちんと教えてほしいと思っていました。しかし、大人でも自転車の交通ルールを正確に教えられる人は少ないと思います。子どもと保護者が一緒に勉強できるような動画にしようと考えたわけです。」

2つ目は、管轄する細江地区の小学校在静岡県の中でも子どもへの自転車教育に対して熱心に取り組んでいること。毎年、東京ビッグサイトで開催される「交通安全子供自転車全国大会※」（主催：（一財）全日本交通安全協会、警察庁）で、地区内にある小学校が2013年、2016年、2018年に優勝を果たしているのだ。「私たちが静岡県大会や全国大会に向けて各小学校の練習をサポートしています。残念ながら、今年は新型コロナウイルスの影響で全国大会はもちろん県大会も中止になりました。大会に向けた練習も自転車教育を行う貴重な機会だったので、子どもたちに動画で、知識の部分を補ってもらおうと思いました。」

動画は「自転車の交通ルール（小学生向け）」「自転車点検」「交差点の通り方・曲がり方」の3つ。「自転車の交通ルール」ではHondaが提供した「あやとりい」の交通場面やクルマなど

のイラストの実物を画像データに変換して動画の中に取り込んだ。これらのイラストを活用して、自転車が通行すべき場所をわかりやすく示す内容となっている。

「地区内の小・中学校に動画を公開したことを案内すると、各学校から保護者へ視聴を呼びかけてもらうことができました。これまでやっていたような交通安全教室はしばらくできません。学年や班ごとに場所を分けたり、時間差で実施するなど、密にならない工夫をしながら、これからも現場で直接、子どもたちに寄り添った安全教育をしていきたいと思います」と鈴木さんは力強く語った。

※全国の小学生に自転車の安全な乗り方に関する知識と技能を身につけてもらうとともに、交通安全の意識を高め交通事故を防止することを目的として1966年から毎年開催されている。全国大会に先立って開催される各都道府県大会で選ばれた47チームが学科と実技（安全走行テスト、技能走行テスト）で競う。



「交差点の通り方・曲がり方」は「生まれ」の標識がある交差点での一時停止や安全確認などについて指導員が模範を示す映像を収録



「自転車の交通ルール」では「あやとりい」の交通場面やクルマなどのイラストを活用



「自転車点検」ではブレーキやタイヤなど6つの点検項目について、指導員が手順を実演



（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部の動画は交通安全指導員4名（写真右が鈴木利枝さん）が力を合わせて制作した

## 今回紹介した動画は以下のホームページからご覧いただけます。

横浜市 道路局 交通安全・自転車政策課

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kotsu/anzen/kotsuanzen/youjidooga.html>

交通安全岩国市対策協議会

<https://www.facebook.com/koutaikyo.iwakuni/>

<https://www.instagram.com/koutaikyo/>

（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部「学習支援サイト交通安全」

<http://shizuankyou.jp/publics/index/162/>